

=> S JP02152461/PN
L1 1 JP02152461/PN

=> D ALL

L1 ANSWER 1 OF 1 WPINDEX COPYRIGHT 2000 DERWENT INFORMATION LTD

AN 1990-222191 [29] WPINDEX

DNN N1990-172346 DNC C1990-095990

TI Medical tissue-absorbed membrane - used effectively in air-leakage preventing operations and bleeding stoppage.

DC A96 D22 P34

PA (NISO-N) NIPPON SOGO IGAKU K

CYC 1

PI JP 02152461 A 19900612 (199029)*

<--

ADT JP 02152461 A JP 1988-305046 19881201

PRAI JP 1988-305046 19881201

IC A61L015-64

AB JP 02152461 A UPAB: 19930928

A new medical tissue-absorbed membrane is made of a tissue-absorbed high molecular material. High molecular materials include animal intestines (those from cattle and sheep, etc) hydrochloric salt of corium collagen of cattle, polyglycolic acid, and cellulose oxide polyglatin 910. The membrane is applied by simple adhesion, instead of suturing, in the case of small wounds. The adhesion is opt. done with fibrin adhesive. The membrane is pref. as thin as possible, but with a sufficient thickness to withstand a maximum press of, e.g. 50 mmHg under operation conditions. The membrane is pref. soft and flexible. It is applicable to the muscle, lung, atrium, blood vessel wall, and bone marrow. It opt. contains antibacterial agents and hemostatic agents.

0/2

FS CPI GMPI

FA AB

MC CPI: A12-V03D; D09-C04B; D09-C06

⑫ 公開特許公報(A) 平2-152461

⑤ Int.Cl.⁵

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 平成2年(1990)6月12日

A 61 L 15/64

6779-4C A 61 L 15/04

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全2頁)

⑭ 発明の名称 組織吸収性膜

⑰ 特 願 昭63-305046

⑱ 出 願 昭63(1988)12月1日

⑲ 発 明 者 横 山 正 義 東京都杉並区高円寺南4-20-6 有限会社日本総合医学
研究所内⑳ 出 願 人 有限会社日本総合医学 東京都杉並区高円寺南4-20-6
研究所

㉑ 代 理 人 弁理士 佐田 守雄 外2名

明 細 書

1. 発明の名称

組 織 吸 収 性 膜

2. 特許請求の範囲

1. 組織吸収性高分子材料よりなる医療用組織吸収性膜。

3. 発明の詳細な説明

〔技術分野〕

本発明は、手術後の処置を迅速、適確に行うために使用する医療用組織吸収性膜に関する。

〔従来技術〕

切開手術における切り口の処理方法としては古くから縫合、抜糸の方法が採られてきたが、近年吸収性縫合糸による縫合を行い抜糸の必要でないことも多い。

しかしながら、これはあくまでも縫合であるため傷口が完全にシールされているわけではないから、傷口からの出血が術後の回復に悪影響をおよぼすことがある。又、肺の手術

においては、傷口からの空気もれがおこり、やはり好ましくない影響を与える。このような場合には、可吸収性創腔充填止血剤が使用されてきた。これは例えば酸化セルロースからなる綿状のもので、これを出血部にはりつけて使用していた。また、もう1つの止血方法としては接着剤例えば、フィブリン糊、ビオボンド、シアノアクリレートなどを出血部位に塗りつける方法であった。ところが、いずれの方法を採っても処置に時間がかかったり、出血の圧力が大きい場合には全く止血効果がないなど満足すべき効果をあげることができなかった。また、組織面から出血傾向をともなう、出血する場合、これら接着剤の塗布のみでは止血が困難である。

〔目 的〕

本発明の目的は、極めて簡単に充分満足できる止血効果を持つ止血部材を提供する点にある。

〔構 成〕

本発明は、組織吸収性高分子材料よりなる医療用組織吸収性膜に関する。

前記組織吸収性高分子材料としては、動物（例えば、牛、羊等）の腸、牛等の動物の真皮コラーゲン塩酸塩、ポリグリコール酸、ポリジオキサノン、酸化セルロースポリグラチン910等を例示することができる。

本発明の吸収性膜は、傷口が小さければ縫合することなく貼り付けるのみでよいし、傷口が大きい場合には縫合糸で縫合した後、吸収性膜を貼り付けるのがよい。本発明の吸収性膜の貼り付けはフィブリン糊などの接着剤を使用して接着してもよい。

膜の厚みは、耐圧力が使用環境下で最大50 mmHgの圧力に耐えられる厚みであればできるだけ薄い方が好ましい。又、本発明の吸収性膜はその使用目的からできるだけ軟らかい性質をもつ材料を選択することが好ましい。

本発明の吸収性膜は、筋肉面からの小さな無数の出血に対する止血用、肺の縫合部から

の空気もれ防止のほか、心房の切開部所、血管壁縫合部、冠状動脈吻合部の切開部所に対する止血用、硬膜からの出血のための止血用、骨片採取部の骨髓からの出血のための止血用、あるいは組織に対する一時的保護用として極めて有用である。

本発明の吸収性膜の用途はこれに限定されるものではなく、広く動物のための止血用、空気もれ用、組織保護用として使用することができる。

本発明の吸収性膜中に必要に応じて抗生物質等の抗菌剤、止血剤等を配合しておくこともできるし、又、吸収性高分子物質の分子にあらかじめ薬剤分子を結合させておいて使用することができる。

吸収性膜の成形は通常の高分子物質による膜状物の成形手段を使用することができるが、通常、流延成形又は押出成形法による。

〔効果〕

本発明の吸収性膜の使用により、手術後の

止血処置、空気もれ処置が短時間に、極めて効果的に遂行することができ、術後の仕上りも極めてきれいにすることができる。

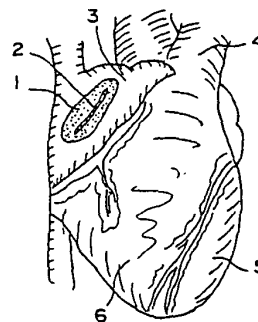
4. 図面の簡単な説明

図面は本発明の吸収性膜の使用態様を示す。

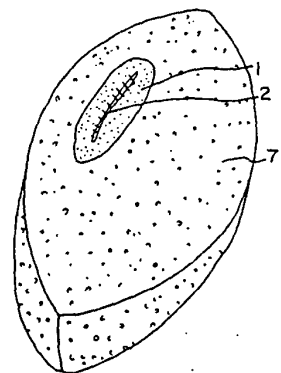
第1図は、心臓の手術後に本発明の吸収性膜を適用した態様を示し、第2図は、肺の手術後に本発明の吸収性膜を適用した態様を示すものである。

- | | |
|--------|-------|
| 1…吸収性膜 | 2…切開部 |
| 3…右心房 | 4…肺動脈 |
| 5…左心室 | 6…右心室 |
| 7…肺 | |

第1図



第2図



特許出願人 有限会社 日本総合医学研究所
代理人 弁理士 佐田 守 雄 外2名

